

# 大谷中学校だより



NO14



URL <http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~ootanj/NC2/> H27年1月8日発行 文責：藤谷

新年あけましておめでとうございます。旧年中は学校の教育諸活動にご協力ご支援を賜りありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

2015年の干支は「羊年」です。羊年の人は世話好きでおとなしい外見では想像もつかないほどの情熱と、芯の強さを持っているので、組織の中では補佐役や参謀役、あるいは人生の女房役といった裏方的な役割や仕事が適しているそうです。また、物事を手堅く進めるので、人生において大きな失敗や障害にぶつかることもそうないそうです。しかし、取り越し苦労が絶えず、場合によ

っては念を入れすぎて時期を逃し幸運を逃す場があります。美男美女が多く、両親や兄弟と一緒に住むという宿命を持っているのが羊年だそうです。

本校では、校長先生をはじめ教頭、長松先生が羊年です。ちなみに郷ひろみ、明石家さんま、江川卓、千代の富士、堂本光一、坂本冬美などが年男年女になります。

今年も大谷中学校の活動を手堅く進め、失敗や障害にぶつかることなく、職員一丸となってがんばります。



日	曜	1月の行事予定
8日	木	始業式 書き初め大会 職員会議
9日	金	スプリングコンテスト
14日	水	生徒会委員会 左義長
16日	金	生徒集会
17日	土	全能登中学校交歓バスケットボール田鶴浜大会
19日	月	3年学力テスト ～20日まで
20日	火	保健指導 ～22日まで
23日	金	集金日 いしかわ読書の日 市教委訪問
24日	土	英検

## インフルエンザ注意

関東地方ではインフルエンザが流行しだしたようです。インフルエンザの予防接種はお済みですか？登下校の服装や部活動の後の汗でぬれたTシャツなどは着替え、風邪をひかないよう十分に注意しましょう。また、うがいや手を洗って風邪の菌がつかないように予防対策にも注意を払いましょう。学校でも手洗いや教室の窓を開けたりしながら予防対策を行っています。そして、栄養と睡眠をとり疲れを残さないようにしてください。



## 解体作業の遅れ

9月過ぎから体育館やプールの解体を行う予定になっていたのですが、建築法が改正され、その手続きや改正された部分の基礎工事などの設計やそのための予算措置の承認を得るための議会承認などが重なり工期が遅れたそうです。

12月後半から、自転車小屋、渡り廊下、1月から2月にかけてプール、体育館を解体するそうです。そして、今年度中に、基礎工事を終える予定になっているそうです。

皆さんにお知らせすることが遅くなり申し訳ございません。

## 高校説明会終了

飯田高校・能登高校の進路担当の先生方を招いて高校説明会が3年教室で行われました。各高校とも特色ある教育内容の話でした。どの高校もやる気のある生徒を求めているようです。

家庭で是非ともそれぞれの適性に合った高校選択の話をしてください。

進路に関する日程の説明も併せて行いました。進路に関するお便りもでていますが、日程をしっかり把握し、各申し込み締切日に遅れないようにしてください。

## 各種コンテストについて

- ・スプリングコンテスト実施 1月9日（金）
- ・英検 24日
- ・漢字博士コンテスト（1・2年）  
取り組み：1月19日～23日
- ・理科重要語句コンテスト（全学年）  
取り組み：1月26日～30日
- ・計算博士コンテスト（1・2年）  
取り組み：2月9日～13日
- ・社会重要語句コンテスト（全学年）  
取り組み：2月23日～27日

1月に入り各種コンテストが行われます。これは基礎的な重要語句や単語、各種計算などの定着度を見るために行われるものです。みなさん自分の力が試されます。各種コンテストの取り組みだけでなく、家庭学習の中で身につけて下さい。

また、2年生は4月に行われる全国・石川県の基礎学力調査のためのスキルアップ学習もありますのでお知らせしておきます。

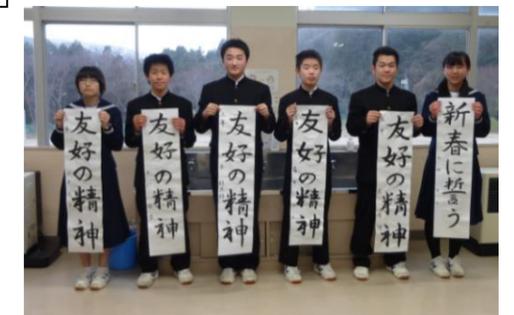


## 総合的な学習 発表会終了

地域学習の総まとめとして、12/21日は発表会を行いました。保護者の皆様や地域の方が聞きに来られました。3年生は地域の歴史から「大谷の獅子舞」が大雨で困っている人々を元気づけるため、「観光」では70年代に訪れた能登半島ブーム。2年生は体験学習から疑問を抱いた「塩」と「カボチャ」に目をつけた産業。1年生は大谷地区の自然や環境がいつまでも大切にしたいなどをプレゼンし、内容のある発表会になりました。

土の中の微生物	
外浦の海藻	
大谷の海の微生物	
空気の汚れ	
大谷の塩は珠洲にどのような影響をもたらすか	
珠洲のカボチャ	
大谷の獅子舞の歴史	
観光の歴史	

## 書き初め大会



# 学校研究

平成24・25・26年度 珠洲市教育委員会指定による、珠洲市『生きる力』を育む教育推進事業を受けて「小中一貫教育 教育課程カリキュラム研究発表会」を小中合同で行いました。市内の先生方を中心にたくさんの参加をいただきました。また、PTAの役員の皆様にも駐車係や接待、ビデオ撮影の協力もしていただきました。3年間の取組の趣旨をお知らせしますのでご覧ください。

## 研究主題

### 1. 研究主題及び副題

主題 一人一人の学習意欲を高める授業の工夫

副題 自分の考えや思いを明確に相手に伝えることができる生徒の育成



### 2. 研究主題設定の理由

西部小学校から本校へと学年の生徒数に変化なく、少人数で9年間の学校生活を送る。そのため、集団内での積極的な関わり方が希薄であり、お互い気の知れた者同士として生活が成り立っている傾向がある。授業中の落ち着いた態度や課題、提出物に対する真面目な取り組み姿勢が見られる一方で、全国学力調査および県基礎学力調査の分析では毎年、「根拠の説明が不適切である」「表現力に関わる問題で困難を感じる生徒がみられる」「要点を捉えた適切な説明がなされていない」「自分の考え、気持ちが正しく伝えられていない」などが課題としてあげられる。

表現力を高めることで学び合う活動を活性化し、思考力・判断力の向上につながる。そこで、「書く・説明する・聞く」の3要素を一体化した言語活動を充実させ意図的に授業に設定することで、相手に明確に自分の考えや思いを伝える生徒の育成につながるものとする。「相手に的確に伝えることができた」「相手の考えや思いを受け取ることができた」といった体験と基礎基本の確実な定着を土台に、生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けることができるものとする。

### 3. めざす生徒像

#### (1) よく学ぶ子（知）

「書く・話す（説明する）・聞く」の表現活動により、主体的に学習課題に取り組み、学び合いを通して思考力、判断力を発展させる生徒の育成とともに、確実な基礎基本を身に付けた生徒の育成。

#### (2) 思いやる子（徳）

全ての教育活動の場面において他との関わり方を学び、思いやる心をもった生徒の育成。

#### (3) たくましい子（体）

積極的に運動に親しむ習慣や資質を育成するとともに、健康安全についての知識、実践力をもった生徒の育成。

### 4. 今年度の重点事項

(1) 基礎基本の定着と活用力育成のための取組の継続と改善

(2) 小中一貫に向けた「小から中へのなめらかな移行と発展」のための研究

(3) 小学校との連携、授業交流、研究交流の実施

(4) 生徒の自主的な活動、思いやりを育む特別活動、学校行事の工夫

(5) 読書活動の推進

(6) 里山里海教育推進事業の推進（2年目）



## 研究の内容

### 1 活用力を高める授業づくり

(1) 根拠や筋道を明確に表現させる

#### ① 「書くこと」をもとに「話す」ことにつなげる指導

・ノート、ワークシートを用いて「課題の確認」「自分の考えや思い、伝えたいこと」の欄を設定し、書くことに対する慣れや要点を意識して書く活動を多く取り入れる。

・「話すこと」の準備（資料）、自己の考えの整理、積極性を促すものとして「書くこと」を取り入れる。

・全体の場合での共有化をはかるために、ノート・ワークシートの内容をホワイトボード（発表ボード）に再記入する。＝要点やキーワードを意識して、簡潔で分かりやすい書き方を意識させる。

#### ○「話すこと」

・「書いたこと」をもとに、話す上で要点（キーワード）や相手にとって分かりやすい話し方—結論や根拠など先に述べる—をルールとして定着させる。

・聞き手を見て話すことを意識させる。

・相手に伝わる「はっきりした声」「最後まで言い切る」ことを大切にさせる。

#### ② 「聞くこと」の指導

○「話し手」を意識して傾聴する姿勢を身に付けさせる。

・話し手を見て聞く姿勢を習慣にさせる。

・自分の考えと比較しながら聞くことに留意させる。

・メモをとる際には、より簡潔に素早く行うことを意識させる。



(2) 物事を多様な観点から考察する力の育成に向け、多面的・多角的に思考させる。

① 考察場面を、「個人」→「全体の場合での共有化」→「個人」の過程を基本にし、学び合うことを通して思考を深めさせる。

② 言語活動の充実によって多様な観点から考察し、思考の深化をはかる。

③ 全ての教科において、資料考察・実験・観察・情報処理などから得られる多様な思考を尊重させる。

④ 課題に応じた学習形態で、言語活動の充実、学び合う場を設定する。

(3) 取得した知識や技能を活用・応用させる。

ア 教科・単元のなかで、既習事項をいかして学習課題を解決する場を設け、「使う」ことが「できる」ことの糸口になることを経験させる。

イ 総合的な学習の時間において、各教科で学んだことが課題の解決に使えることを経験させる。

#### 【成果】

・「書く」「話す（説明する）」「聞く」の学習課程を基本にして、表現力の向上がわずかながらみられるようになってきた。

・特別活動や学校行事等での表現活動に積極的に取り組む生徒が多く見られるようになった。

・「小から中への緩やかな移行」をもとに学びの連続性を意識した小中合同の研究会を多くもつことができた。

#### 【課題】

・授業中の発言はわずかに向上しているが、発言につなげて話す場面や多様な意見の交流がみられるよう高めていきたい。

・ホワイトボードを活用した授業実践を重ねていかなければならない。

・「書く」「話す」に対して、「聞く」指導が不十分である。メモをとる場面などの一部ではみられるが、「聞く」ことの大切さについて生徒に理解をさせたい。

・9年間の学びの一貫性の見地から、西部小・大谷中の特性に向けた研究を一層推進する必要がある。

亀山さん、大兼政さん、常俊さん

給食の食材をいただきました。ハクサイ、ニンジン、果物、大根 ありがとうございます。